

I 研究主題

普通科高校における効果的なキャリア教育の在り方
～各教科指導とその他の教育活動とのつながりを通して～

II 主題設定の理由

今日の生徒の進路を取り巻く環境は大きく、そして急速に変化している。情報化やグローバル化、少子高齢化、消費社会など、社会情勢はめまぐるしく変化しており、さらに若者の勤労観・職業観の希薄化や、社会人・職業人としての基礎的・基本的な資質の不足、高い早期離職率、フリーターやニートの問題など、多くの課題も残されている。また、生徒が将来に不安を感じ、学校生活と自分の将来との関係に意義を見いだせないことが、学習意欲の低下や学習習慣の欠落などを招く一因とも考えられる。他にも、学校教育では、地域の課題解決に参画する意識や態度を育てる取組が十分行われているとは言い切れない。

そのような時代を生き、将来を担う世代である生徒たちは、「生きる力」を身に付け、社会の激しい変化の中で、それぞれが直面するであろう様々な課題に、柔軟にかつたくましく対応し、社会人として自立していくことが求められる。このような中、学校教育においては、キャリア教育の推進に大きな期待がかかっている。「第二次宮崎県教育振興基本計画」でも、キャリア教育の充実が重点課題の一つとして取り上げられている。そして、コミュニケーション能力などの社会人として、あるいは職業人としての基礎的・基本的な資質の育成について、小・中・高等学校等の一貫した指導が期待されている。

専門高校等では、卒業後に実社会へ巣立つ生徒も多く、インターンシップなどの体験活動を含めて様々な取組を行っている。しかしながら、大学等への進学希望者が大半を占める普通科高校においては、主に進学指導に偏る傾向があり、上級学校の向こう側、つまり、社会に出る時に必要な基礎的・基本的資質の育成は十分に行われているとは言えない。また、キャリア教育の実践は、実際に行われている教育活動との関連付けが図られていないという課題もあり、教員のキャリア教育の視点をもった教育活動に対する意識を向上させる必要がある。

キャリア教育の考え方では、学校は、進学希望であるか就職希望であるかを問わず、将来の生き方に関わる問題として、生徒が将来への夢や希望を育み、その実現に向けて努力する指導・援助に取り組む必要がある。したがって、将来の社会参画を視野に、高校で学ぶ意義や目的を見だし、学習や諸活動を積極的に取り組むよう、また、仮に生徒が高校を卒業しなくても、学業に再挑戦したり、社会生活・職業生活に参加したりすることで、社会的に自立することができるような資質の育成を図らなければならない。

そこで、本研究では、普通科高校において、キャリア教育の視点から全教育活動を見直し、各教科指導とその他の教育活動とのつながりのある教育を実践しながら、将来の自立した社会人・職業人として必要な基礎的・基本的な資質を身に付けていく生徒の育成を目指すことにした。

理論研究では、普通科高校の全教育活動をキャリア教育の視点から系統立てて見直し、英語科を例として、各教科指導とその他の教育活動とのつながりをもたせたキャリア教育のモデルを作成する。実践研究では、作成したモデルを基に、各教科指導においてキャリア教育の視点をもった授業実践に取り組むことで、生徒と教員のキャリア教育に対する意識の向上を図っていく。

これらの取組を通して、普通科高校においては、各教科指導を中心にして、全教育活動につながりをもたせることでキャリア教育を推進することができるのではと考え、本主題を設定した。

Ⅲ 研究目標

普通科高校の全教育活動をキャリア教育の視点から見直して、各教科指導とその他の教育活動とのつながりのある教育実践を通して、将来の自立した社会人・職業人として必要な基礎的・基本的な資質を身に付けていく生徒の育成を目指す。

Ⅳ 研究仮説

普通科高校において、各教科指導とその他の教育活動とのつながりをもったキャリア教育のモデルを作成し、それを基に実践していけば、全教育活動を通して生徒のキャリア発達を効果的に促すことができ、将来の自立した社会人・職業人へ向けて高校生活を充実させようとする生徒・教員の意識が高まるであろう。

Ⅴ 研究内容

1 理論研究

- (1) キャリア教育の基本的な考え方
- (2) キャリア教育と各教科指導
- (3) キャリア教育とその他の教育活動
- (4) 学校全体としてのキャリア教育
- (5) 各教科指導とその他の教育活動とのつながりをもたせたキャリア教育のモデル

2 実践研究Ⅰ「高校生活に意義をもたせる」

3 実践研究Ⅱ「将来を見据えて進路を考えさせる」

Ⅵ 研究計画

月	研究内容	研究事項	研究方法	備考
4	○ 研究の方向性	○ 研究主題・副題・仮説の設定 ○ 研究内容・研究計画の設定	○ 文献研究	
5	○ 理論研究	○ 理論の構築、研究概要の設定 ○ 実態調査内容の検討	○ 文献研究 ○ 理論構築	
6	○ 実態調査 ○ 実践研究Ⅰの構想	○ 実態調査の実施及び分析 ○ 実践研究Ⅰ内容検討及び準備	○ アンケート調査と分析	宮崎大宮高等学校
7	○ 実践研究Ⅰ ○ 実態調査	○ 検証授業Ⅰの実施と分析 ○ 実態調査の実施及び分析	○ アンケート調査と分析	宮崎大宮高等学校
8	○ 研究の整理	○ グループ協議会の事前準備		
9	○ グループ協議会 ○ 実践研究Ⅱの構想	○ グループ協議会中間発表 ○ 実践研究Ⅱ内容検討準備・実施	○ 文献研究	宮崎大宮高等学校
10	○ 実践研究Ⅱ ○ 実態調査	○ 検証授業Ⅱの実施と分析 ○ 実態調査の実施及び分析	○ アンケート調査と分析	宮崎大宮高等学校
11	○ 研究のまとめ	○ 全体協議会事前準備		
12	○ 全体協議会	○ 全体協議会中間発表		
1	○ 研究のまとめ	○ 研究の成果と課題 ○ 研究報告書の作成		
2	○ 研究のまとめ	○ 研究発表会事前準備		
3	○ 主題研究発表会	○ 研究のまとめと反省		

Ⅶ 研究構想

《目指す生徒像》

将来の自立した社会人・職業人を目指し、目的意識をもって充実した高校生活を送る生徒

《研究主題》 普通科高校における効果的なキャリア教育の在り方
～各教科指導とその他の教育活動とのつながりを通して～

《研究目標》

普通科高校の全教育活動をキャリア教育の視点から見直して、各教科指導とその他の教育活動とのつながりのある教育実践を通して、将来の自立した社会人・職業人として必要な基礎的・基本的な資質を身に付けていく生徒の育成を目指す。

《研究仮説》

普通科高校において、各教科指導とその他の教育活動とのつながりをもったキャリア教育のモデルを作成し、それを基に実践していけば、全教育活動を通して生徒のキャリア発達を効果的に促すことができ、将来の自立した社会人・職業人へ向けて高校生活を充実させようとする生徒・教員の意識が高まるであろう。

《研究内容》「普通科高校における、各教科指導とその他の教育活動とのつながりを生かした、効果的なキャリア教育のモデルの作成とその活用」

＜理論研究＞

- (1) キャリア教育の基本的な考え方
- (2) キャリア教育と各教科指導
 - ア 各教科の学習内容
 - イ 各教科の学習活動
 - ウ 各教科・科目間のつながり
 - エ 学力向上への取組
- (3) キャリア教育とその他の教育活動
 - ア 核となる体験活動
 - イ その他の教育活動
- (4) 学校全体としてのキャリア教育
 - ア 全教育活動のつながり
 - イ 学校外との「縦」と「横」の連携
- (5) 各教科指導とその他の教育活動とのつながりをもたせたキャリア教育のモデル

＜実践研究Ⅰ＞

「高校生活に意義をもたせる」

- (1) 事前実態調査の実施
- (2) 検証授業Ⅰにおける単元計画の工夫
- (3) 検証授業Ⅰの実際
- (4) 他教科の実践
- (5) 事後実態調査の実施と結果
- (6) 実践研究Ⅰの成果と課題

＜実践研究Ⅱ＞

「将来を見据えて進路を考えさせる」

- (1) 事前実態調査の実施
- (2) 検証授業Ⅱにおける単元計画の工夫
- (3) 検証授業Ⅱの実際
- (4) 授業後のアンケート集計結果
- (5) 他教科の実践
- (6) 事後実態調査の実施と結果
- (7) 実践研究Ⅱの成果と課題

キャリア教育の視点をもった教育活動に対する生徒・教員の意識向上

文部科学省学習指導要領
キャリア教育の手引き

第二次宮崎県教育振興基本計画
宮崎県キャリア教育ガイドライン

各校教育方針や経営ビジョン
キャリア教育の目標

Ⅷ 研究の実際

1 理論研究

(1) キャリア教育の基本的な考え方

平成23年1月31日の中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」において、キャリアとは「人が生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ね」であり、キャリア教育とは「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と定義している。また、キャリア発達とは「社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程」としている。

キャリア教育には、「生きる力」を身に付けさせるという時代の要請に応えつつ、【表1】にある、子どもたちが力強く生きていくために必要な資質や能力を育てることで、キャリア発達を促していくことが期待されている。このキャリア教育の視点からの教育活動は、特定の活動や指導方法に限定されず、様々な活動を通して実践されるものである。

【表1】キャリア教育における基礎的・汎用的能力

基礎的・汎用的能力	人間関係形成・社会形成能力 (例) 他者の個性を理解する力、コミュニケーション・スキル、リーダーシップなど
	自己理解・自己管理能力 (例) 自己の役割の理解、自己の動機付け、忍耐力、主体的行動など
	課題対応能力 (例) 情報の理解・選択・処理、課題発見、計画立案、実行力など
	キャリアプランニング能力 (例) 学ぶこと、働くことの意味・意義の理解、生き方の多様性の理解、将来設計など

(2) キャリア教育と各教科指導

ア 各教科の学習内容

単元や題材等の内容が、職業や社会生活等に強く関連する場合、教科の目標を踏まえたキャリア教育の視点からの指導は、当該単元・題材等のねらいを実現するための有効な手立てとなり、積極的な取組が強く期待される。間接的な関連であっても、学習内容が社会において活用されている場面を伝えることによって、生徒が社会に対して目を向ける機会となると同時に、その教科・科目を学ぶおもしろさや楽しさを実感できる。これは、生徒の学ぶ意欲を高める手立てとして非常に有効である。

また、各教科・科目を学ぶ意義を伝えることも、とても大切である。「なぜ勉強するのか」「今の学習が将来どのように役立つのか」ということについての発見や自覚は、日頃の学習に取り組む姿勢の改善につながり、そのことがさらなる新たな発見や、より深い学習へとつながっていく。次頁【表2】にある、各教科の学習を通して期待されるキャリア教育のポイントを意識して指導し、生徒の学ぶ意欲を高め、生徒のキャリア発達段階を考慮して、学習内容を有効な断片としてその他の教育活動とつなぐことで、キャリア教育を進めることができる。

つまり、教科の目標を踏まえ、キャリア教育を教科指導にも取り込んでいくことで、生徒の学習意欲や学力向上、さらに指導者の授業力向上に対して大きな期待がもてる。

【表2】各教科・科目におけるキャリア教育のポイント（国立教育政策研究所：キャリア教育のススメ）

国語	話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの言語活動を通して、言葉で伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語文化への関心を深め、国語を尊重しその向上を図る態度を育てる。
地理 歴史	現代の諸課題を諸資料に基づき、歴史的背景や地理的条件と関連付けて総合的に考察することを通して、歴史的思考力や地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
公民	人間としての在り方生き方についての自覚を育て、平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う。
数学	事象を数学的に考察し筋道を立てて考え表現する能力や、数学を積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する力を高めることを通して、工夫して生活や学習をしようとする態度を育てる。
理科	自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、目的意識をもって観察・実験を行うことや、科学的な自然観を育成することによって、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度や真理を探究する態度を育てる。
保健 体育	運動の実践を通して、公正、協力、責任、参画への意欲を育てるとともに、健康・安全について理解することを通して、健康の大切さを知り、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し改善する資質や能力を育てる。
芸術	芸術を愛好する心情を育てるとともに、表現と鑑賞の能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深めることによって、生涯を通じて、芸術と生活や社会とのかかわりを考える態度を育てる。
外国語	外国語を通じて、互いの立場や考えを尊重しながら伝え合う力やコミュニケーションを図ろうとする態度を養うことによって、広い視野や国際感覚、国際協調の精神を備えた人材を育成する。
家庭	家族・家庭及び福祉、消費生活、衣食住などの生活に必要な知識と技術を、実験・実習や他者とかかわる力を高める体験活動を通して習得させ、生涯を見通した生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。
情報	情報に関する科学的な見方や考え方を養い、それらが果たす役割や影響を理解させることによって、情報社会で適正な活動を行うために基になる考え方を身に付けさせ、情報社会に参画する態度を育てる。

例として、外国語科を挙げてみる。学習指導要領では、外国語科の目標を「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う」としている。【表2】のキャリア教育におけるポイントと併せて考えると、現代のグローバル化社会に通用するコミュニケーション能力の育成において、大切な役割を果たす教科であると言える。また、題材として扱う内容は、各種社会問題や人の生き方など多岐にわたっており、それぞれが現代社会と大きく関わるものである。この点では、外国語科は学習内容を通して、効果的にキャリア教育を推進することができる教科であると考えられる。

イ 各教科の学習活動

学習活動に関しても、基礎的・汎用的能力の育成に大きく関わっており、具体的な指導方法を工夫することができる。例えば、コミュニケーション能力が不足していると感じれば、授業における話し合い活動や少人数でのグループ活動を取り入れ、あるいは、計画性に乏しいなどの実態が把握できれば、発表へ向けた計画的な取組を導入するなど、実態に応じた多様な学習活動が考えられる。指導者側が生徒の実態を踏まえて、授業を意図的に計画し、学習活動に工夫を凝らすことができれば、生徒の基礎的・汎用的能力の育成を十分に図ることができる。

外国語科専門科目「英語」に関しては、学習指導要領において、「聞くこと」、「話すこと」、「読

むこと」、「書くこと」の4技能の総合的指導を通して、これらの4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力を育成することが大きな基本方針となっている。「聞くこと」や「話すこと」を中心とした、ペアワークやプレゼンテーションによる人間関係形成・社会形成能力の育成や、自分の将来について「書くこと」を通したキャリアプランニング能力の育成など、様々な言語活動を通して基礎的・汎用的能力を育成することができる。

【図1】英語科と他教科における関連学習の例

ウ 各教科・科目間のつながり

各教科・科目において、キャリア発達段階や学習内容に応じて、他教科と意図的なつながりをもたせることにより、さらに系統的なキャリア教育を推進することができる。各教科・科目が生徒のキャリア発達段階を考慮することで、あるいは、キャリア教育の視点から他教科の学習内容とのつながりを生み出すことで、より効果的な指導を行うことができる。【図1】は、英語科と公民科・家庭科に、「進路目標を設定する」というキャリア発達段階や、学習内容である「生き方・人生・社会」のテーマを考慮してつながりをもたせた例である。



エ 学力向上への取組

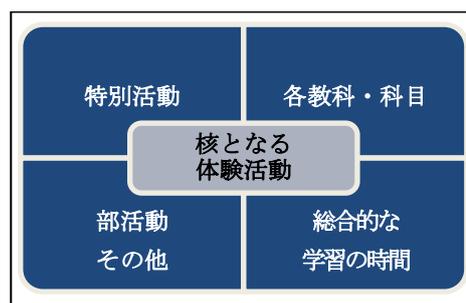
各教科・科目の学力向上で必要となる能力や態度の育成も、生徒の基礎的・汎用的能力の育成につながる。生徒が学習目標を設定し、課題を見付け、努力して学力を高める取組は、基礎的・汎用的能力の自己理解・自己管理能力や課題対応能力の育成につながる。日頃の学習や受験勉強を含め、高校生が各教科・科目の学力を高めようと努力することは、自己管理能力や課題対応能力など将来必要な資質や能力を身に付ける鍛錬の場になっていることを、生徒に明確に伝えることが大切である。

【図2】核となる体験活動を中心としたつながり

(3) キャリア教育とその他の教育活動

ア 核となる体験活動

普通科高校のキャリア教育は、生徒のキャリア発達段階に対応した体験的活動として、進路講演会や社会人講話、大学のオープンキャンパス参加、医師・看護体験などを取り入れている。実際に、職業体験ができるインターンシップを実施している学校もあるが、大学関係者や社会人の講話も、将来を考えるうえで大変参考になる活動である。これらの取組のうち、特に中心となる活動を「核となる体験活動」と位置付け、キャリア発達を促すために全教育活動を系統的に進めていく必要がある。【図2】のように、これらの核となる体験活動と各教科指導を含めた全教育活動をつなぐことで、キャリア教育のさらなる効果が期待できる。

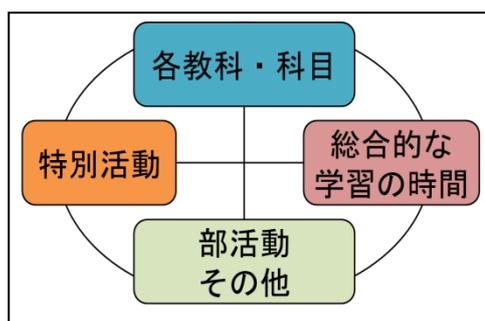


イ その他の教育活動

キャリア発達段階に応じた「総合的な学習の時間」や「特別活動」は、キャリア教育の核

となる体験活動やその前後指導を含め、つながりをもたせる有効な学習となる。普通科高校では、主に総合的な学習の時間を利用して、進路学習の内容も計画的に扱っている。また、特別活動として、話し合い活動やレクリエーション活動、学校行事として文化祭や体育大会など、あるいは日常的な教育活動として清掃活動を行っており、それらはすべて、基礎的・汎用的能力の育成につながる。教育課程外の活動では、土曜日に行われる進路講演会や社会人講話、希望制講座などの様々な取組や、日頃の部活動なども、基礎的・汎用的能力の育成につながる様々な役割を担っている。

【図3】キャリア教育における全教育活動のつながり



(4) 学校全体としてのキャリア教育

ア 全教育活動のつながり

学校における全教育活動には、それぞれキャリア教育における重要な役割がある。普通科高校においても、各教科・科目をキャリア教育の視点でとらえ、それぞれの教育活動を単独に行うのではなく、生徒のキャリア発達段階に応じた体系的・系統的な取組を行うなど、教育活動を工夫することが必要である。【図3】のように、生徒のキャリア発達段階を十分に考慮し、各教科指導とその他の教育活動をつなぐことが大切である。全教育活動における学びを断片化させずに、キャリア教育の視点からつながりをもたせることで、より効果的な指導を行うことができる。

また、各学校のキャリア教育全体計画には、各学年の重点目標が掲げられている。これらは生徒のキャリア発達段階に応じて設定されており、各学年において効果的なキャリア教育を行うためには、全教育活動がこの目標を土台として実施される必要がある。

これらをまとめると、各学校のキャリア教育は【図4】のように、生徒のキャリア発達段階や取組を中心にして全教育活動がつながることで、系統的・計画的な実施が可能となる。

【図4】生徒のキャリア発達段階や取組を中心とした全教育活動のつながり

学年・学期	1年生 1学期	1年生 2学期	1年生 3学期	2年生	3年生
各教科・科目					
キャリア発達段階や取組の例	新環境への適応 人間関係構築 自己理解・自己受容 勤労観・職業観育成 将来設計 進路目標設定 進路(大学等)研究	人間関係構築 自己理解・自己受容 勤労観・職業観育成 将来設計 進路目標設定 文理選択 進路(大学等)研究	人間関係構築 自己理解・自己受容 他者理解・他者受容 勤労観・職業観育成 将来設計 進路(大学等)研究	2年生発達段階	3年生発達段階
その他の教育活動例	入学式 進路研究Ⅰ 高校総体 進路講演会 クラスマッチ 面談	文化祭 体育大会 進路研究Ⅱ 職業人講話 面談 教育課程登録	面談 人権学習 百人一首大会 進路研究Ⅲ 卒業式 卒業生講話	2年生教育活動	3年生教育活動
キャリア教育学年目標	1年生目標			2年生	3年生
学校におけるキャリア教育目標					

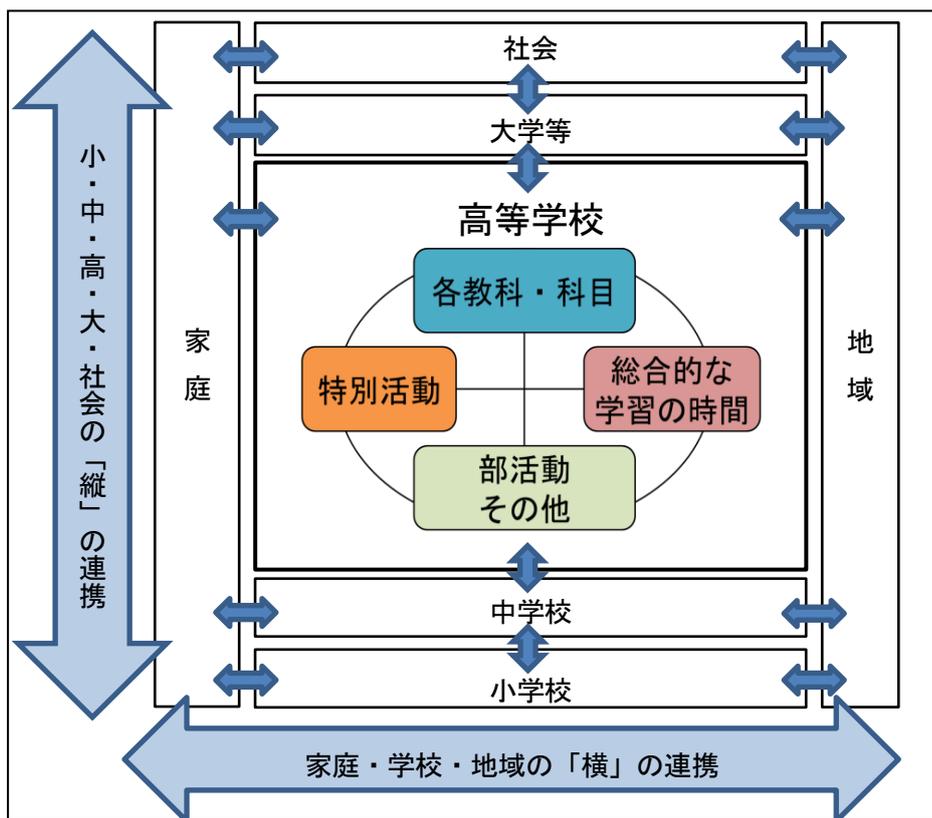
イ 学校外との「縦」と「横」の連携

高等学校のキャリア教育は、小・中学校、上級学校やその後の社会におけるキャリア発達段階を踏まえながら進めていくことが求められている。その意味でも、異校種間の「縦」の連携が大切となり、異校種における各教科・科目やその他の教育活動のつながりを意識する必要がある。また、進学する生徒は職業等を決定する時期が先送りになるからこそ、普通科高校におけるキャリア教育は、上級学校やその後の社会との「縦」のつながりを念頭に置いた系統性が大切となる。本研究では、大学教授による進路講演会（6月）が、この「縦」の連携にあたる。

また、各学校における「横」の連携も大切である。家庭や、企業を含む地域との連携を通してキャリア教育を推進することは、ふるさとを愛し、地域に貢献しようとする気概をもった将来の社会人・職業人の育成につながる。本研究では、保護者や同窓会の方を講師とした講話（大宮ハローワーク：9月）が、この「横」の連携に該当する。

つまり、【図5】のように、各学校における全教育活動、さらに「縦」と「横」の連携を図ることによって、学校・家庭・地域の三位一体による、社会全体でのキャリア教育となる。それぞれの学校・家庭・地域がつながりをもつことで、より効果的なキャリア教育が進められる。

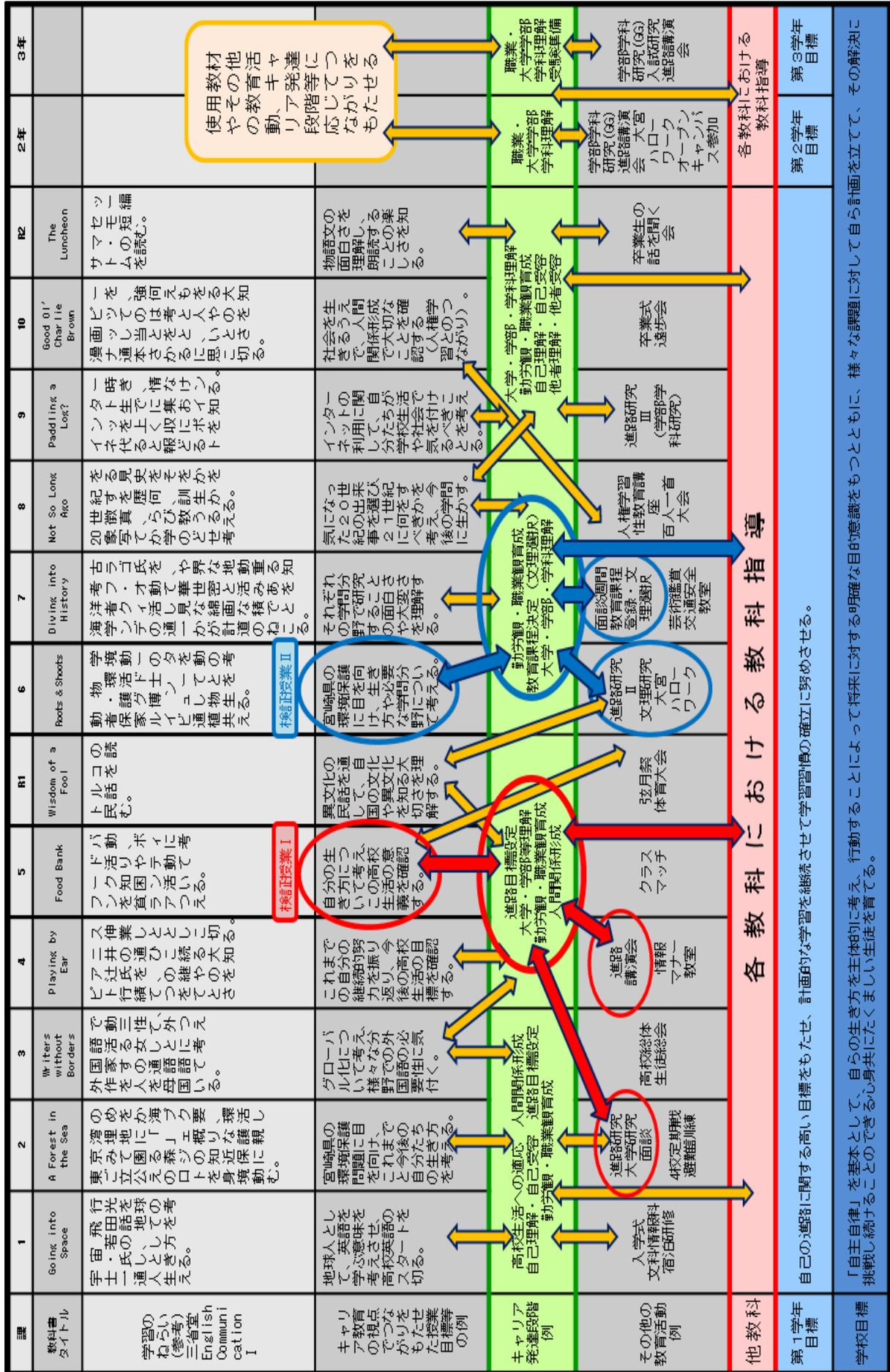
【図5】キャリア教育における学校外との「縦」と「横」の連携



(5) 各教科指導とその他の教育活動とのつながりをもたせたキャリア教育のモデル

以上の理論を踏まえて、宮崎大宮高等学校英語科（第1学年）を例として、各教科指導とその他の教育活動とのつながりをもたせたキャリア教育モデル【図6】を作成した。このモデルを基に、2度の実践研究を行い、検証していくこととした。

【図6】各教科指導とその他の教育活動とのつながりをもたせたキャリア教育のモデル（京大向高等学校英語科例）



2 実践研究Ⅰ 「高校生活に意義をもたせる」

(1) 事前実態調査の実施（6月：宮崎大宮高等学校第1学年 408名）

ア 事前実態調査の概要と結果

宮崎大宮高等学校の第1学年生徒を対象に、【表3】のキャリア教育における基礎的・汎用的能力と高校生活に対する意識調査を行った。基礎的・汎用的能力に関しては、人間関係形成・社会形成能力に対する意識は特に高く、「当てはまる」や「やや当てはまる」の肯定的な回答の割合が94.5%、その他は自己理解・自己管理能力は74.5%、課題対応能力75.1%、キャリアプランニング能力70.0%であった。

また、高校生活の意義理解に関する項目は、全体平均が91.3%であるが、そのうちの質問項目13「各教科・科目の学習内容」に関する項目は、76.0%という結果であった。

【表3】事前実態調査と結果（「4：当てはまる」と「3：やや当てはまる」の肯定的な回答の割合）

基礎的・汎用的能力	キャリア教育に関するアンケート④ 「あなたの日常生活（授業中や放課後、家庭での生活などの全般を含みます）の様子を振り返って、当てはまる番号に○を付けてください。」		学年	基礎的・汎用的能力等別割合平均
		「4」当てはまる/「3」やや当てはまる/「2」あまり当てはまらない/「1」当てはまらない		
人間関係形成・社会形成能力	1	友だちや家の人の意見を聞くとき、相手の立場を考慮して、その人の考えや気持ちを受け止めようとしている。	97.1%	94.5%
	2	自分の考えや気持ちを整理し、相手が理解しやすいよう工夫しながら、伝えようとしている。	91.2%	
	3	人と何かをするとき、自分がどのような役割や仕事を果たすべきか考え、分担しながら、力を合わせて行動しようとしている。	95.3%	
自己理解・自己管理能力	4	自分を振り返り、長所や短所を把握して、良いところを伸ばし、悪いところを克服しようとしている。	84.5%	74.5%
	5	自分がすべきことがある時に、喜怒哀楽の感情に流されず行動を適切に律し、それに取り組もうとしている。	71.1%	
	6	不得意なことでも、自ら進んで、取り組もうとしている。	67.8%	
課題対応能力	7	調べたいことがある時、自ら進んで資料や情報を収集し、正しい情報・必要な情報を取得選択しながら活用している。	79.6%	75.1%
	8	何か問題が起きた時、次に同じような問題が起こらないようにするために、原因を調べ、課題を発見し、解決策を考えようとしている。	69.4%	
	9	何かをするときに、見通しをもって計画し、評価・改善を加えながら実行している。	61.3%	
キャリアプランニング能力	10	学ぶことや働くことの意義について考えたり、様々な働き方や生き方があることを理解したり、今学校で学んでいることと自分の将来とのつながりを考えたりしている。	79.4%	70.0%
	11	自分の将来について具体的な目標をたて、社会の現実を視野におさめながら、その実現のための方法について考えている。	69.4%	
	12	将来の目標の実現に向けて具体的な行動を起こしたり、それを振り返って改善したりしている。	61.3%	
高校生活の意義理解	13	各教科・科目で学ぶ学習内容は、大学入試合格だけでなく、将来社会を生き抜く力になると思う。	76.0%	91.3%
	14	学校生活における学級活動や係活動などは、社会人として必要な力を付けることに役立つと思う。	95.3%	
	15	学校や家庭における清掃活動は、社会人として必要な力を付けることに役立つと思う。	95.6%	
	16	文化祭や体育大会、その他の学校行事は、社会人として必要な力を付けることに役立つと思う。	95.1%	
	17	学校の部活動が、社会人として必要な力を付けることに役立つと思う。	94.6%	

イ 事前実態調査の考察

この結果から、宮崎大宮高等学校第1学年の生徒は、高い目的意識をもって進学しており、キャリア教育の視点から考えても、将来必要な能力に対する意識はある程度高いと言

える。しかし、自己理解・自己管理能力や課題対応能力、キャリアプランニング能力の育成については、改善の余地がある。また、生徒たちに、「各教科・科目の学習内容」が将来の社会人・職業人としての生き方につながることをより強く意識させ、上級学校卒業後の社会参画へ向けて努力させる取組が必要である。そのためにも、各教科・科目の学習の中で学力を身に付けさせるとともに、学習内容と社会につながりをもたせる取組が必要であると考える。

(2) 検証授業 I における単元計画の工夫

ア 単元とキャリア発達段階とのつながり

第1学年の1学期は、進路目標を設定し、各教科・科目の学習や部活動など充実した学校生活の基盤づくりの時期であり、それぞれの将来へ向けて意義のある高校生活を送らせるための指導が必要である。特に、各教科の授業やその他の教育活動において、目的意識をもたせる工夫が必要である。検証授業 I では、【図7】のように、単元とキャリア発達段階とのつながりをもたせて単元計画を立て、学習内容が将来の生き方や高校生活との関わりをもつよう工夫した。コミュニケーション英語 I 教科書(Crown)第5課では、あるアメリカ人の社会に対する考え方や生き方がテーマであるため、生徒が「自分の生き方を考え、目標を設定し、それを実現するためには、高校生活をどう過ごすべきか」を考える発展的学習を取り入れた。

他教科でも、単元とキャリア発達段階とのつながりをもたせることで、他教科間にもつながりが生まれる。

【図7】では、化学基礎において、進路目標設定のために研究職の話をした結果、教科の学習と社会における職業との関わりを知ることができ、この検証授業 I の発展的学習のポイントとつながることになる。

【図7】単元計画の工夫



イ 単元とその他の教育活動とのつながり

5月初旬の総合的な学習の時間では、生徒のキャリア発達段階を考慮して、「進路研究 I (大学を知る)」が実施された。7月初旬には、大学進学へ向けた目標設定や大学進学の意味、そして自分の将来について考える「核となる体験活動」の一つとして、宮崎大宮高等学校出身の上智大学学長による講演会を実施した。これは大学とのつながりであり、キャリア教育の「縦」の連携にあたる。7月末には、学校生活や進路に関する面談(家庭訪問含む)を行った。この単元の導入部分では、これらの教育活動についても触れるなど、つながりを考慮して計画・実施した。

【写真1】コミュニケーション活動の様子



ウ 学習活動の工夫

外国語科の大きな目標である、コミュニケーション能力の育成を十分に踏まえ、キャリア教育における基礎的・汎用的能力の人間関係形成・社会形成能

力やキャリアプランニング能力の育成を図るために、学習活動を工夫した。自分の将来について考えたことを表現するために、ペアやグループ、クラス全体でのコミュニケーションを重視した活動を意図的に取り入れた。【写真1】は、グループでのコミュニケーション活動の様子である。

(3) 検証授業 I の実際（平成 26 年 7 月 16 日実施）

【表4】は教科書第5課「Food Bank」を教材とした指導過程の一部である。最終的には「自分の生き方を考え、高校生活の意義を再確認し、それを英語で表現して伝えることができる」を目標に活動を行った。ペア、グループ、そして全体でのコミュニケーションを図る場を設定するとともに、その目標を達成できる活動となった。【図8】はある生徒のワークシートであるが、英語で自分の考えを明確に表現し、上記の目標を達成していた。

【表4】キャリア教育の視点を踏まえた学習指導過程

	指導内容	学習活動	外国語科 評価の観点	キャリア教育の視点を踏まえた 指導上の留意点	主なキャリア 教育の視点
導入	あいさつ	あいさつと簡単な英会話をを行う。		対教師のコミュニケーション活動に積極的に参加させる。	
	本時の 目標確認	本時の目標「マクジルトンの生き方を振り返りながら、将来の自分の生き方を考え、英語で表現する」を確認する。		本時の目標を板書して、将来の自分の生き方を考えることを意識させておく。	
展開	Section 4 一斉復習	Section 4 の内容を教師との対話の中で、キーワードを使って復習する。		対教師のコミュニケーション活動に積極的に参加させる。	人間・社会
	L 5 全体 一斉復習	各自でワークシートに取り組み、ペアで、その後全体で答えを確認し、L 5 全体の内容を復習する。その後、教師の説明を聞いて再度確認をする。		マクジルトンの考えや生き方は、生徒が自分の考えや生き方の参考にできるよう、黒板を使って視覚的にも分かりやすく説明する。	人間・社会 キャリア
	発展的な 学習活動	教師の例を聞き学習活動を理解する。自分の将来の生き方について考え、英語でまとめる。その際に、学習した表現（関係副詞を含む）を用いる。その後ペアワークで発表する。 将来の生き方を実現させるためにはこの高校生活の中で、何をどのように頑張りたいかを考え、記入する。記入後、4人グループで発表する。 全体発表をする。聞く側は真剣に聞く。	表現 知識・理解 関・意・態	どんな社会で生きたいか、そのためには何をしたいかを考え、英語で表現させる。	自己理解管理 キャリア 人間・社会
			表現 関・意・態	将来の目標へ向けた高校生活の意義や過ごし方を考えさせる。 対生徒のコミュニケーション活動に積極的に参加させる。	自己理解管理 キャリア 人間・社会
表現 理解			発表を真剣に聞かせ、他人の考えを参考にさせる。	キャリア	
まとめ	まとめ	教師の英語によるまとめと感想を聞き取り、本課と本時の目標を再度確認する。	理解	今後の学校生活に対する生徒のモチベーションを上げる。	

※外国語科評価の観点 「関・意・態」・・・関心・意欲・態度
「表現」・・・表現

「知識・理解」・・・知識・理解
「理解」・・・理解

※主なキャリア教育の視点 「人間・社会」・・・人間関係形成・社会形成能力
「課題対応」・・・課題対応能力

「自己理解管理」・・・自己理解・自己管理能力
「キャリア」・・・キャリアプランニング能力

【図8】生徒のワークシート

About yourself!

1. What kind of society do you want to live in?
I want to live in a society where all people can feel happy.

2. What do you want to do in the future? For what?
I want to be a doctor to help many sick people in the world.

3. Then, what do you think you should do in your high school life?
In order to achieve my goal,
I think I should study especially Math and English hard because I think I will use many things of math and being able to speak English.

皆が幸せな社会で暮らしたい

将来は医者として、世界の病人を助けたい

そのためには、高校で特に数学と英語を勉強したい

(4) 他教科の実践

検証授業 I の実施前後である 6～7 月を中心に、生徒のキャリア発達を促し、教員のキャリア教育に対する意識を高めるために、第 1 学年の他教科の授業においてもキャリア教育の視点を取り入れた実践を行った。日頃の授業で可能な範囲で、キャリア発達段階や他教科、その他の教育活動とのつながりを意識した授業実践に取り組んだ。【表 5】は、その一部である。

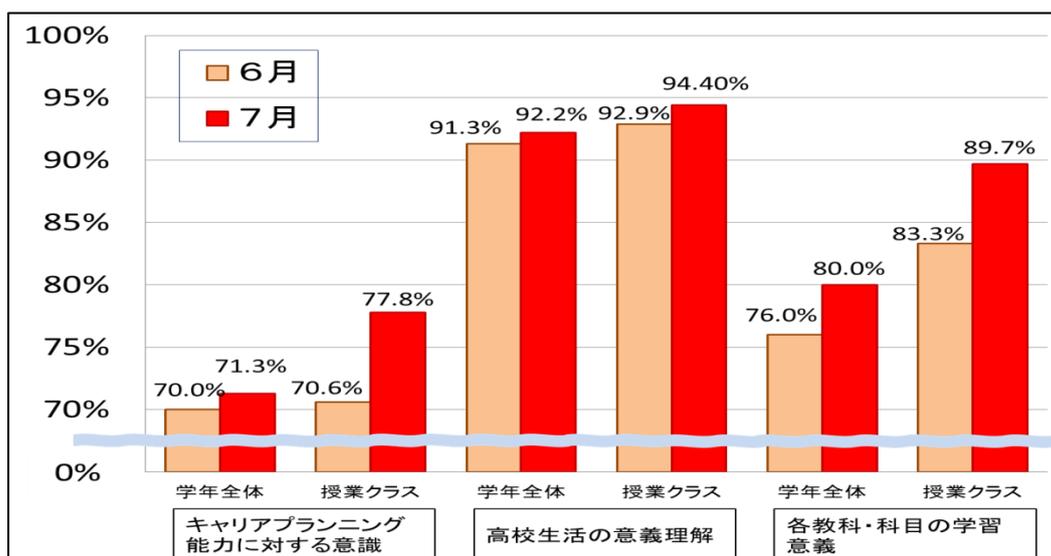
【表 5】他教科・科目等におけるキャリア教育の実践例（一部抜粋）

教科・科目等	実践内容	つながり
社会と情報	知的財産の保護と活用・著作権 レポートでの引用ルール等の考察	総合的な学習の時間（小論文） 家庭（ホームプロジェクト）
	「著作権」に関する考察	国語・現代文
科学と人間生活	単元「食品と衣料」にて、食品添加物に関する科学技術の進歩と課題説明	家庭「食品」
	受験科目ではない必修科目を学ぶ意味の考察（社会とのつながり）	家庭、情報など
現代社会	「基本的人権の保障」の学習を通じた、公共の福祉に関する考察、人間関係形成能力の育成	家庭 生き方 基礎的・汎用的能力
数学	数学を学ぶ意味	数学A（確率） 基礎的・汎用的能力
	「二次関数」の考え方と社会人に必要な思考力の関連性説明	
化学基礎	「原子の構造と電子配置」に関連した、原子力発電の話	数学、物理、家庭、 進路研究（研究職について）
保健体育	「加齢と健康」を通じた、就職後を含む将来設計や健康的な生き方の考察	家庭 将来設計

(5) 事後実態調査の実施（7月：第1学年 386名）と結果

基礎的・汎用的能力のキャリアプランニング能力に対する意識では、【図 9】のように、特に検証授業実施クラスにおいて肯定的な回答の割合に大きな上昇が見られた。また、「高校生活の意義理解」も上昇したが、「各教科・科目で学ぶ学習内容は、大学入試合格だけでなく、将来社会を生き抜く力になると思う」の項目では、特に大きな上昇がみられた。

【図 9】事後実態調査結果（肯定的な回答の割合）



(6) 実践研究 I の成果と課題

(成果)

- 各教科指導とその他の教育活動につながりをもたせ、生徒のキャリア発達段階や取組を考慮した工夫を行ったことで、キャリアプランニング能力を育成し、学習に対する意識を高めることができた。

- 他教科と共に実践し、生徒のキャリア発達段階や取組、あるいは他教科とのつながりをもたせた実践を行うことができた。

(課題)

- 検証授業Ⅰの最後に計画した、発展的な学習活動へ向けての前時の説明や準備が少し不十分であった。検証授業Ⅱは、活動をより充実させるためにも、事前準備に力を入れたい。
- 今後の生徒のキャリア発達段階や学校行事等の取組を考慮して、各教科がさらに積極的にキャリア教育の視点をもった教科指導に取り組むことが望まれる。

3 実践研究Ⅱ 「将来を見据えて進路を考えさせる」

- (1) 事前実態調査の実施（7月：宮崎大宮高等学校第1学年 386名）

ア 事前実態調査の概要と結果

第1学年を対象とした実践研究Ⅰの事後実態調査（7月）とともに、実践研究Ⅱの事前実態調査として、基礎的・汎用的能力と高校生活に対する意識に加えて、【表6】の第2学年以降の文系・理系コース選択（以下、文理選択）と、将来の目標に関する意識調査を行った。

【表6】実践研究Ⅱ事前実態調査 肯定的な回答の割合（抜粋）

	文理選択と将来の目標に関する質問	肯定的回答	4項目平均
18	自分が文系に向いているか、理系に向いているか、理解していると思う。	72.0%	67.3%
19	自分の就きたい職業または社会においてやりたいことに向けて、文系・理系どちらに進むべきか、理解していると思う。	72.0%	
20	大学等で自分が進みたい学部等の分野が、現段階で目標として決まっている。	64.0%	
21	大学卒業後の自分の目標（職業や社会人としての生き方）が、現段階である程度決まっている。	61.0%	

イ 事前実態調査の考察

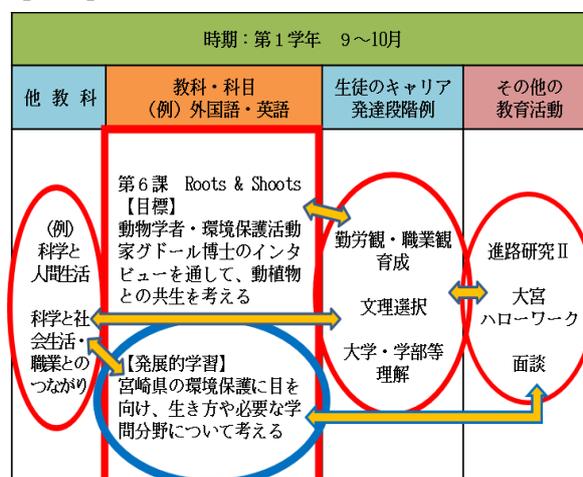
文理選択に関しては、4項目平均 67.3%の結果が出ており、まだ十分に自分の適性を理解していなかったり、将来の目標を決定していなかったりする生徒も多い。また、進みたい学部等の分野や将来の職業になると、肯定的な回答の割合はさらに低く、まだ決めかねている様子がうかがえる。この結果から、各教科の授業や総合的な学習の時間等を利用して、文理選択に関して生徒にとって役立つ情報や考える機会を増やすことが重要であると考えた。

- (2) 検証授業Ⅱにおける単元計画の工夫

ア 単元とキャリア発達段階とのつながり

9～10月は、第2学年以降の文系・理系のコースを選択して登録する時期に近づいており、文理選択に対する生徒の関心は高く、悩んでいる生徒も少なくない。そこで、検証授業Ⅱも、【図10】のように単元の学習内容とキャリア発達段階とのつながりをもたせて単元計画を立てた。教科書第6課「Roots & Shoots」のテーマである「自然との共生」からの発展的学習内容として、「現代の社会問題は様々な分野から解決を図らなければならないこと」、そして生徒自身が「どのような分野から問題解決へ向け

【図10】単元計画の工夫



てアプローチすることに興味・関心があるか」を考えさせる機会とした。そして、将来の職業や進学先における学問分野の選択、併せて高校における文理選択の手助けとなるよう工夫した。他教科でも、【図 10】の「科学と人間生活」のように、キャリア発達段階を考慮した教科指導を行うことで他教科同士がつながり、より効果的なキャリア教育が期待できる。

また、宮崎県の自然保護問題を取り上げ、それに対する解決策を考えることによって、郷土に対する誇りや愛着、地域の課題解決に参画する気概の育成も意識した。

イ 単元とその他の教育活動とのつながり

9月には、「核となる体験活動」の一つである「大宮ハローワーク」が行われた。これは、宮崎大宮高等学校の保護者や同窓会の方を社会人講師として迎え、生徒が興味・関心をもっている分野の職業人から話を聞くことができる貴重な機会であり、「学校」と「家庭」や「地域」を結ぶ、キャリア教育の「横」の連携にあたる。その活動の前後の指導として、総合的な学習の時間「進路研究Ⅱ」や担任との面談も行われた。【図 10】のように、これらの教育活動との時期的・内容的なつながりを考えて、この単元で文理選択や上級学校での学問分野、さらに社会において自分が活躍できる分野を考える機会となるよう工夫した。

ウ 学習活動の工夫

検証授業Ⅰと同様に、外国語科の目標である「コミュニケーション能力の育成」を十分に踏まえ、キャリア教育における基礎的・汎用的能力の人間関係形成・社会形成能力の育成を図るために、グループやクラス全体でのコミュニケーション活動を導入した。また、自分で問題解決策を考えることで課題対応能力の育成を、将来や学問分野を考えることでキャリアプランニング能力の育成を図った。【写真 2】は、自然保護への解決策と必要な学問分野、さらに文系・理系を考える、クラス全体でのコミュニケーション活動の様子である。

【写真 2】全体でのコミュニケーション活動の様子



(3) 検証授業Ⅱの実際（平成 26 年 10 月 1 日実施）

次頁【表 7】は、コミュニケーション英語Ⅰ教科書第 6 課を教材とした指導過程の一部である。(2)の単元計画の工夫にあるように、この検証授業Ⅱを通して達成したい単元目標は、①自然との共存の大切さに気付くこと、②社会における諸問題解決のためには、様々な分野からのアプローチが必要だと気付くこと、③今回の学習が文理選択に役に立つこと、である。

生徒は、最後の発展的な学習活動の中で、宮崎県の自然（例として綾ユネスコエコパーク）を守るために、将来自分たちは何をすべきかを英語で考え、グループ内で発表した。その後全体でアイデアを共有する中で、自然環境保護問題の解決策と学問分野との関係を表したマップを用いて、それらを実践していくためにはどのような学問分野で学ぶべきかを考えた。そこから、文理選択のヒントを得られる実践を行った。将来を展望し、それに向けた自分のキャリア選択に役立つ内容である。次頁【図 11】は、自然環境保護のための取組と学問分野を関連付けたマップを含めた、生徒のワークシート記入例である。

【表7】キャリア教育の視点を踏まえた学習指導過程

	指導内容	学習活動	外国語科 評価の観点	キャリア教育の視点を踏まえた 指導上の留意点	主なキャリア 教育の視点
導入	あいさつ	あいさつと簡単な英会話を行う。		対教師のコミュニケーション活動に積極的に参加させる。	
	本時の 目標確認	目標の「自然環境保護に関する自分の考えを英語で発表する」「理系文系選択に対する自分の興味関心や適性を考えること」を確認する。		本時の目標を板書して、将来の社会貢献や進学後の学問分野を考えることを意識させておく。	
展開	Section 4 一斉復習	Section 4 を音読し、内容の復習をする。ペアでシャドウイングを行う。		音読活動に積極的に参加させる。	人間・社会
	発展的な 学習活動	宮崎県綾ユネスコエコパークの自然を守るための解決策を考え、英語でワークシートに記入する。	表現	自分なりの考えをもたせ、英語で表現させる。	課題対応 自己理解管理
		グループ内でそれぞれの解決策を英語で発表する。聞く側は、ワークシートにメモする。その後、各班2つのアイデアを選出する。	関・意・態 表現 理解	他人の発表に真剣に耳を傾け、考えを参考にさせる。	人間・社会
		各グループで選出された2つのアイデアを全体に発表する。聞く側はワークシートのアイデアマップをまとめる。発表された解決策を確認しながら、教師の補足説明を参考に、キーワードをアイデアマップに記入する。	関・意・態 表現 理解	生徒から出なかった分野に関しては、指導者がアイデアを出し、計画した全分野をアイデアマップに含める。	人間・社会 キャリア
		板書とワークシート(マップ)で、それぞれの解決策が、どのような学問分野を必要とするかを考える。また、自分のアイデアについても学問分野を確認する。	理解	大学の学部を参考に、それぞれの解決策が、どのような学問分野を必要とするかを分かりやすく説明する。	キャリア 課題対応
		それぞれの学問分野が文系・理系どちらになるのかを考えさせる。	理解	まず、マップの左右の境界線が、何を意味するかを考えさせる。その後、文系・理系に気付かせる。	キャリア
まとめ	まとめ	教師の英語によるまとめと感想を聞き取り、本課と本時の目標達成度を振り返る。	理解	社会における諸問題は、様々な分野からの解決策が必要なことを確認させる。今回の授業を、文理選択に生かすことを伝える。	課題対応

※外国語科評価の観点 「関・意・態」・・・関心・意欲・態度
「表現」・・・表現

「知識・理解」・・・知識・理解
「理解」・・・理解

※主なキャリア教育の視点 「人間・社会」・・・人間関係形成・社会形成能力
「課題対応」・・・課題対応能力

「自己理解管理」・・・自己理解・自己管理能力
「キャリア」・・・キャリアプランニング能力

【図11】生徒のワークシートとマップと感想(例)

In order to protect Aya Biosphere Reserve, we should
we should plant trees and must not break forests

①解決策アイデアを書く
(例) 植林+森林保護
Key words: (Plant Do not break)

②マップで解決策と学問分野との関連を考える

Note

Humanities Conservation of Aya science

(law 法学部) (economy/politics 経済学部 政治学部) (engineering 工学部) (agriculture 農学部)

law money clean technology water plant

法律分野? 政経分野? 工業分野? 農業分野?

文系? ③文系・理系を考える 理系?

(literature/art 文学部) (education 教育学部) (science 理学部) (medicine 医学部)

コメント【Lesson 6 の授業の感想】

授業後の生徒の感想

Lesson 6 では、自然の大切さについて学べた。最後には、身近な宮崎の話題から、自分達の将来につなげる学習かできた。

コメント【Lesson 6 の授業の感想】

「綾」という美しい自然を守るためには、自分たちにどんなことができるかという考えを、友達と一緒に行った。共有できて良かったです。また文理選択にも役立てられると思えました。

(4) 授業後のアンケート集計結果

ア 生徒アンケート

【表8】授業後の生徒アンケート（検証授業実施クラス:38名）

検証授業Ⅱ 授業後の生徒アンケート		とても思う	少し思う	思わぬ	全くない	回答数	肯定的回答割合
		4	3	2	1		
本時の授業について							
1	Lesson 6の学習を通して、自然との共存の大切さを考えることができましたか？	30	8			38	100.0%
2	自然保護問題の解決は、様々な分野からのアプローチが必要だと理解できましたか。	29	9			38	100.0%
3	今回の学習が、文理選択を考えるのに少しでも役立つと思いますか。	16	15	5	2	38	81.6%

【表8】の「授業後の生徒アンケート」の集計結果から、次の3つの目的は果たしたと考えられる。まず、本課を通して「自然との共存の大切さを考えること」、そして生徒に気付かせたいと考えていた「社会問題は様々な分野からのアプローチが必要であること」も、肯定的な回答の割合が100%であり、ねらいを達成できた。最後の、「文理選択に役立つか」との質問に対し、81.6%の生徒が肯定的回答をしており、おおむね良好な結果であった。一つの教科として、文理選択を含めた生徒のキャリア発達に対して貢献できたと考えられる。

イ 教員アンケート

【表9】授業後の教員アンケート（提出者9名）

検証授業Ⅱ 授業後の教員アンケート		とても思う	少し思う	思わぬ	全くない	回答数	肯定的回答割合
		4	3	2	1		
本時の授業について							
1	教科の特性を生かした、生徒が将来の社会人、職業人として必要な能力を育む授業であった。	5	4			9	100.0%
2	教科で学習する内容と、進路研究（総学）や大宮ハローワークなどの教育活動とのつながりを感じる授業であった。	6	2	1		9	88.9%
3	将来の社会貢献や、それにつながる学問分野、文理選択を考える機会となるような授業であった。	7	2			9	100.0%
4	ふるさと宮崎を自分たちで守る、という意識を高める授業であった。	6	1	1		8	87.5%
5	Further Activity（発展的活動）の視点は、他教科でも参考になるものであった。	5	3			8	100.0%
本研究について（授業や資料等から感じられたこと）							
6	それぞれの教科・科目の中で、どのように学習活動にキャリア教育の視点を取り入れればよいか、参考になる。	3	6			9	100.0%
7	それぞれの教科・科目の中で、どのように学習内容にキャリア教育の視点を取り入れればよいか、参考になる。	6	3			9	100.0%
8	さまざまな教育活動のつながりを持たせることで、より効果的なキャリア教育を行うことができると感じる。	7	2			9	100.0%

授業を参観した教員への授業後のアンケート集計結果【表9】からも、目標としていた「将来や学問分野、そして文理選択を考える一つの機会づくり」は達成できたことが分かる。ただし、この時間のみを参観した教員には、発展的な学習活動の内容が「進路指導」的で特別な印象が強く、なぜそのような内容へつなげたかという「発想」の部分、つまり「キャリア教育の視点から、各教科の学習内容や学習活動なども生徒のキャリア発達へつなげるために工夫することができる」ということに関して、理解を得ることができなかった可能性がある。

(5) 他教科の実践

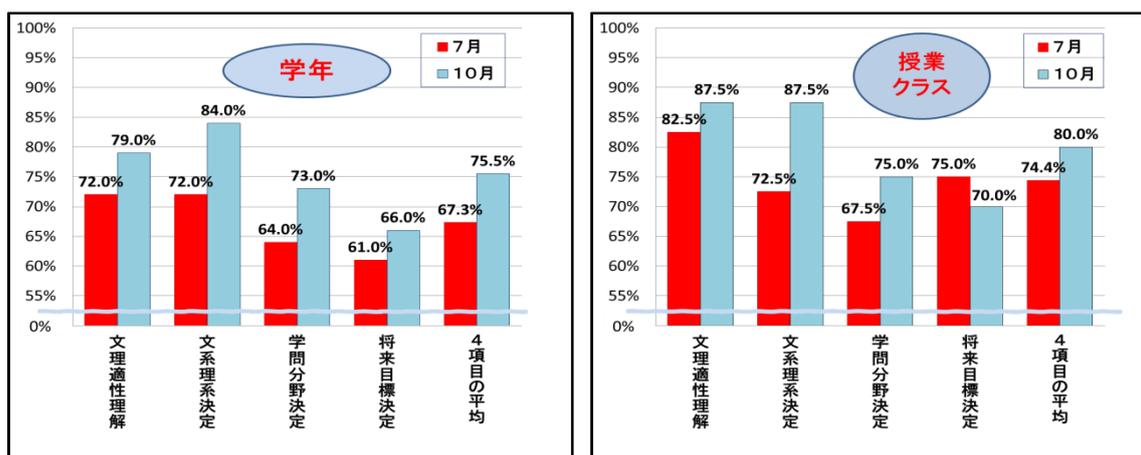
検証授業Ⅱを実施した9～10月の時期を中心に、第1学年の他教科の授業においても、キャリア教育の視点からの取組を依頼した。この時期は特に、第2学年以降の文理選択の時期であり、将来を見据えた文理選択へつながる教科指導が期待される。将来の職業や進学後の学問分野に関連すること、文理選択を含めた生徒のキャリア発達段階、その他の教育活動や他教科とのつながりを意識して、他教科でも実践に取り組んだ。下の【表10】は、その一部である。

【表10】他教科・科目等におけるキャリア教育の実践例（一部抜粋）

教科・科目等	実践内容	つながり
国語総合	文系理系を超えた、「言葉の世界」の広がりと思考力の考察	全教科 文理選択
数学	数学的思考・判断と人間の生き方に関する話	生き方 文理選択
現代社会	裁判員制度や選挙を通じた、ふるさとや生き方に関する考察	家庭基礎
科学と人間生活	科学と社会生活・職業とのつながりに関する話	現代社会 文理選択
家庭基礎	経済・生活・職業を通じた将来の生き方の考察	現代社会 文理選択

(6) 事後実態調査の実施（10月：第1学年399名）と結果

【図12】第3回実態調査結果：肯定的な回答の割合（抜粋）※質問内容は【表6】を参照



基礎的・汎用的能力に関しては、全体的に6月、7月の調査とほぼ同じように、「人間関係形成・社会形成能力」が特に高いという結果が得られた。しかしその中で、キャリアプランニング能力に関しては、「進路研究Ⅱ」や文理選択を通して進路を考える機会を得たこともあり、学年平均が71.3%から74.3%へ、授業実施クラスでも73.3%から75.8%へ上昇している。

文理選択と将来に関する意識調査では、【図12】のように学年全体の数値が67.3%から75.5%へ上昇し、意識は高まりつつあると言える。検証授業Ⅱを実施したクラスに関しては平均値が74.4%から80.0%へと上昇しており、多少の成果はみられた。

(7) 実践研究Ⅱの成果と課題

(成果)

- 生徒のキャリア発達段階や取組に応じて、各教科指導とその他の教育活動とのつながりをもたせた指導を行い、生徒が自分の生き方や今後の進路を考える機会をもったことで、文理選択を含めたキャリアプランニングに対する意識は上昇しつつある。
- 今回も他教科と共に取り組むことができ、教員のキャリア教育に対する意識の向上を図ることができた。

(課題)

- 文理選択に関して、まだ迷っている生徒もおり、今後も継続的なサポートが必要である。
- 自己理解・自己管理能力や課題対応能力育成においては、短期間における取組では大きな成果は見られず、さらに長期的・継続的な取組が必要である。

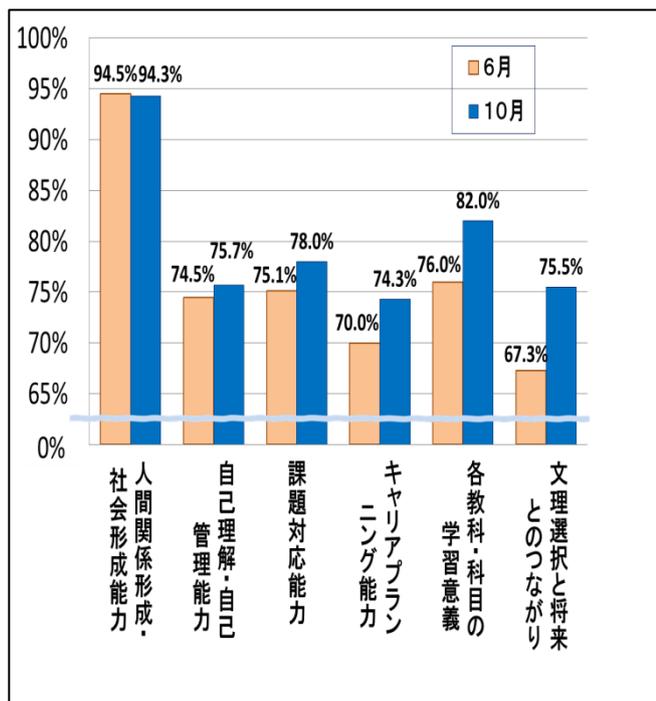
Ⅹ 研究の成果と今後の課題

1 意識の変容

(1) 生徒の意識の変容

6月と10月の実態調査の結果を比較すると、【図13】のように、学校における全教育活動によって、生徒のキャリア教育における基礎的・汎用的能力に対する意識は上昇しつつあることが分かる。また、実践研究Ⅰと実践研究Ⅱを通して他教科の取組も得られ、「高校生活の意義理解」の項目のうち、「各教科・科目の学習意義」は、76.0%から82.0%と他の項目よりもやや大きく伸びている。この点で、学校における教育活動、特に各教科・科目の学習は、将来の自立した社会人・職業人になるために必要だと考える生徒の数が増えつつあると言える。実践研究Ⅱでは、文理選択と将来に関する項目への肯定的な回答の割合が67.3%から75.5%へと伸びており、文理選択を含めた生徒のキャリア発達段階を考慮し、各教科指導とその他の教育活動とのつながりをもたせたキャリア教育の成果があったと言える。

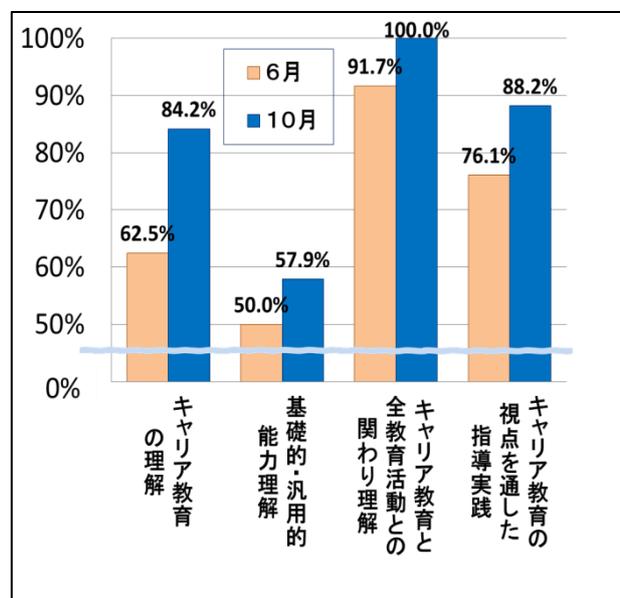
【図13】1年生に対する、基礎的・汎用的能力などに関する実態調査の結果（抜粋）：肯定的な回答の割合の比較



(2) 教員の意識の変容

6月と10月に行った第1学年担当教員向けの実態調査の結果を比較すると、【図14】のように、全ての項目において、肯定的な回答の割合が上昇した。また、キャリア教育実施に対する困り・悩み項目の数は、一人あたりの個数が3.04個から2.68個に減っており、少しずつではあるがキャリア教育に対する理解と実践が進みつつあると言える。

【図14】第1学年担当教員に対するキャリア教育に関する実態調査の結果（抜粋）：肯定的な回答の割合の比較



2 成果と課題

(成果)

- キャリア発達段階を考慮した各教科指導とその他の教育活動とのつながりのある教育実践が、生徒のキャリア発達を促し、将来の自立した社会人・職業人へ向けて、高校生活を充実させようとする生徒・教員の意識が高まった。
- 第1学年・他教科と共に研究を進めたことで、教員のキャリア教育に対する理解と意識の向上を図ることができた。
- 生徒のキャリア発達段階や取組に基づいて、各教科指導とその他の教育活動とのつながりをもたせた、普通科高校におけるキャリア教育のモデルを構築できた。

(課題)

- 普通科高校におけるキャリア教育の在り方について、指導内容や方法が分からないという声もあり、まだ教員の認知度や理解度は十分とは言えず、今後も継続した啓発が必要である。
- キャリア教育における核となる体験活動として、生徒にとって貴重な体験となるインターンシップの実施も、前向きに検討する必要がある。

X おわりに

近年キャリア教育の重要性が叫ばれ、学校教育全体においても様々な研究と取組がなされているが、普通科高校におけるキャリア教育はまだ不十分であるという声は大きい。宮崎大宮高等学校でも、10月の時点で、第1学年担当教員におけるキャリア教育と基礎的・汎用的能力の理解に対する肯定的な回答の割合は上昇したものの、まだ平均で71.1%である。今回の研究をさらに深め、特に教科指導で実践に取り組み、普通科高校ならではのキャリア教育の推進に寄与したい。

県教育研修センターによれば、各種研修を受講する教員へのアンケートの中でも、今後希望する研修内容にキャリア教育を挙げる教員は多いという。各学校の実態に即して、各学校のキャリア教育全体計画を充実させ、全教育活動の中で系統的な指導の工夫・改善に努めなければならない。また、各教科指導の中でさらに研究を深め、キャリア教育に対する理解を図り、具体的な実践に取り組む必要があると考える。

参考・引用文献等

- | | |
|------------------------------------------------------------|------------------------|
| 「高等学校学習指導要領」 | (平成21年3月 文部科学省) |
| 「高等学校学習指導要領解説 外国語編」 | (平成21年12月 文部科学省) |
| 「高等学校キャリア教育の手引き」 | (平成24年2月 文部科学省) |
| 「キャリア教育を創る」 | (平成23年11月 国立教育政策研究所) |
| 「キャリア教育を『デザイン』する」 | (平成24年8月 国立教育政策研究所) |
| 「キャリア教育は生徒に何ができるのだろうか？」 | (平成22年2月 国立教育政策研究所) |
| 「キャリア教育のススメ」 | (平成22年5月 国立教育政策研究所) |
| 「キャリア発達にかかわる諸能力の育成に関する調査研究報告書」 | (平成23年3月 国立教育政策研究所) |
| 「高等学校におけるキャリア教育の推進に関する調査研究協力者 会議報告書
～普通科におけるキャリア教育の推進～」 | (平成18年11月 文部科学省) |
| 「第二次宮崎県教育振興基本計画」 | (平成22年4月 宮崎県・宮崎県教育委員会) |
| 「宮崎県キャリア教育ガイドライン」 | (平成25年1月 宮崎県教育委員会) |
| 「平成25年度版 Crown English Communication I 年間指導計画」 | (平成25年 三省堂) |

《研究実践校》 宮崎県立宮崎大宮高等学校